１０月　月例会　報告

【日　時】令和　８年 10 月 31日　　（土曜日）　　13時から17時
【会　場】中央区・堀留町区民館　　参加者　16名　リモート参加８名

第一部　【研究発表と懇談会】

（１）研究発表：「空白の時代・卑弥呼の時代のヤマト王権」　　竹田　侑子氏

これは、会報報228と230号に掲載されています。

１．説明の趣旨：

近畿地方には九州の「邪馬壹国」とは別性格の国が存在した。
❶最新の考古学的知見❷『和田家資料２「丑寅日本記」』から論証することでした。

２．発表項目　：

❶ヤマトは女王の邪馬台（壹）国とは別性格の国、❷国内最古の馬具出土、❸「丑寅日本記」（北方新社）からの抜粋記事紹介、❹空白の時代/三国時代の日本国（関連年表の解説）、❺故地奪回！孝元天皇は我らが王、❻追記（荒覇吐神統一史、などでした。

３．論点等として：

❶関川尚功著『畿内ではありえぬ邪馬台国』、❷出土した馬具と『記・紀』等の馬関連記事、
❸「丑寅日本記」等による津軽から大和方面への侵攻状況とその統領、など

４．質疑等：

❶津軽勢統領の頭名が倭の五王に酷似するが、時代的な隔たりがある。❷崇神天皇を騎馬民族説から説明するのは適切か。❸『国記』『天皇記』の秘蔵説があるが、実物は見つかっていない。

５．感　想：

❶会場での配布資料のみによる映写操作だったため、竹田さん準備の地図などが使えず残念でした。しかし、❷説明の趣旨と内容はよく理解でき、この問題に関する強い熱意が感じられました。

（発表１０５分、質疑２５分）

。

【懇談会】

❶倉沢良典氏が開会前に配布した資料・大学同窓会に投稿した
「天皇制はいつからはじまったか　－九州王朝論の視座から－」〕を概略説明されました。
❷斎藤事務局長から、古代歴史勉強を始められてから九州王朝論に至る経過を振り返っての話がありました。　（１０分）

第二部　【勉強会と読書会】　　新保　高之氏

（１）【勉強会】　「古田武彦『邪馬壹国の論理』　その４」

１．履修対象：

❶第三編の第一章から第五章〔『翰苑』と柬アジア、銅鐸人の発見、金印の「倭人」と銅鐸の「東鯷(とうてい)人」、七支刀と年号の論理、九州王朝の古跡〕でした。

２．履修内容：

❶第一～第三章は、東鯷(とうてい)人と銅鐸人とが結びついている可能性。❷第四章は、七支刀に刻印された年号「泰和四年」の解釈。❸第五章は、『隋書』俀国伝の記述から想定される「仏教化」の痕跡が大宰府周辺に。
これらについて、各章を構成する全節から要点を抽出した説明と解説がありました。

３．重要事項・質疑等：

以下のようでした。❶「東鯷(とうてい)人」に関して、古田先生は当初の説を変えておられるが、説明が不十分。❷本書刊行は1975年なので、古田先生は「邪馬壹国」以外の課題に取り組み始められた時期だったようだ。❸なお、第三章第三節**「神聖な音楽を献上」**の中で唐突感のある**「是」**について、先生の説明部分を追記します。「是」は、「これ」ではなく「てい」と読む。「韓(てい)訳(やく)」が“夷蛮の音楽の歌詞を翻訳すること”なので、「是(てい)」という字は、**<u>四辺の夷蛮が中国天子に献じた音楽</u>**に関係した文字である。　（解説・質疑３５分）

(2)【読書会】　「清寧他天皇紀その５」

１・履修対象：

以下の二項目でした。
❶巻１５を構成する各天皇紀の構成・主要記事・特徴を再確認。
❷市辺押磐皇子の受難関連『記・紀』記事を並べて比較。

２．説明の内容：

❶に関しては、御繰農機の履修済み上記部分を抽出して簡単な説明がありました。中心派遣早期との事でした。❷については、『古事記』の関係部分を現代文で示し、それぞれの該当部分に対応する『書紀』記事の要点が示した説明がありました。全体的には似ている部分が多かったようです。

３．質疑等：

以下のような意見がありました。❶清寧天皇に皇后がいなかったことに関連して、他に子供がいなかった武烈天皇紀などとの性格比較研究もありうるか。❷袁祁命（弘計王）と平群臣祖先・志毘臣の歌垣譚が、『記』では清寧記にあるが、『書紀』は敏達紀に繰り下がっている（次回に履修予定）。
❸『書紀』に比べ、『古事記』の記述は分かりやすく馴染める。、等でした。　（解説・質疑３０分）